

道教・儒教・仏教三教の共通の基盤である宇宙神教	1
統一的シナ帝国の創立と漢王朝の国家制度および国教の組織	4
第一章 道、宇宙の秩序	
宇宙の道と人間の道	7
世界靈魂と人間の精靈	11
宇宙神教的な心靈理論、多神教、多鬼神崇拜	13
幽靈の世界とその活動	15
倫理学の基礎の一としての靈鬼崇拜 ^{デモニズム}	20
創造性としての道、宇宙神教の三人の太祖	22

第二章 人間の "道"

道は善なるものであり、したがつて人間の性も善であること。

五つの生得的玄徳	28
----------	----

宇宙より借來した生活規範・習慣および典礼	30
----------------------	----

儒教の聖典、人間の道のための指示書	33
正統と異端、不宽容と迫害	35
道の所有は即、完全・聖性・神聖なること	37
宇宙の模倣による道の取得とそれへの順応	39
公正・正義・無私・従順・寛大・温順・克己・冷静	40
聖典の知識によつて獲られる徳行と聖性	49
無為ないし静寂主義・自發的行動	51

第三章 完全性、聖性、神性

徳行における完全性は、聖性ないしは神聖なること	67
聖性の目標、全能・神通力・不可浸性・全知等	69
知見と賢明による聖性	73
聖なる経典は国家制度と倫理学の基礎なること	74
皇帝の英知と徳行	76
儒教の聖人たち	82
熱情の抑制による完全性	84
君臨する皇帝の聖性と神性	87
無制限の帝權	91

第四章 修業による聖性と俗世間からの離脱。長生、惡魔祓い、医術

聖性の修行と解脱

道教の賢者と隱士

道教と仏教の寺觀の生活

德行と智慧による生命の延長と不朽化

惡靈祓いの神通力

存在の延長と健康増進のための調息法

宇宙神教的な病理学・医学および薬物学

不死の人々の樂園

第五章 道教の教団とその諸神祭祀

多神教的な自然教

人間神格化と人間崇拜

祖先崇拜

道教の神統系譜

道教教団の創設

道教教団の聖職者とその活動

158

155

151

150

148

147

道觀と小庵
家庭の祭壇

162
163

第六章 儒教の諸神祭祀――

1 天

167

天に対する大供犠場／冬至の日、上天、祖宗、日、月、星辰
のためになされる皇帝の供犠／大雩とその他の儀典

第七章 儒教の諸神祭祀――

2 大地

216

大地に対する大供犠場

3 皇帝の祖先

230

4 大地と農作物の神々

251

第八章 儒教の諸神祭祀――

5 太陽

263

6 農業の守護神

268

7 養蚕の守護女神

283

第九章 儒教の諸神祭祀—四—

287

9 孔子とその学派の大宗師たち

皇帝の教筵／全帝国における聖賢の崇敬

295

10 天神と地祇

雲、雨、風、雷および全帝国の山岳・河海の供犧場と供饌

310

11 太歲

木星およびその他の時の神々のための廟と供犧

319

第十章 儒教の諸神祭祀—五一—

12 医術の神々

軍神・關帝

325

13 古典研究の守護神・文昌

天の極北

326

14 火神

火砲の神々

327

15 城壁の神々

16 火神

328

17 火砲の神々

18 城壁の神々

329

19 東方聖山の神

20 龍神およびその他の水神

330

21 后土と司工神

22 煉瓦窯とある種の門の守神

331

23 耕物倉庫の守護神

24 各省にある特殊な神々

332

25 国家公務員の巨擘

26 無縁の諸靈

333

国教の偶像崇拜的・儀式過重的特性
宇宙の年ごとの運行と一致して生活すべき人間の必然性
聖なる月令の書
時の流れに相応しない、世界破局の原因としての生活指導。
適時の生活指導の手引書および文書
正確な時間算定を配慮すべき皇帝政府の義務
公暦、その択時占法的な役割と儀式による発行
民間の暦

第十一章 曆による生活指導、曆、択時法

宇宙の年ごとの運行と一致して生活すべき人間の必然性
聖なる月令の書
時の流れに相応しない、世界破局の原因としての生活指導。
適時の生活指導の手引書および文書
正確な時間算定を配慮すべき皇帝政府の義務
公暦、その択時占法的な役割と儀式による発行
民間の暦

第十二章 宇宙の占卜

異常な自然現象の観察と解明は、人間の道における過誤の測定と排除のためであること	377
天および星辰の観察——「占星術」	380
風・雨・雷・電光等の解明	380
地上の一部および人間と動植物の生命における異常現象	394
宇宙精神ないし諸神明の助言勧奨のための手段	405

第十三章 地相術

住宅、墓および祀堂は、宇宙の有益な影響下にあるべきこと	413
五つの宇宙の要素とその他の万有神教的因素	422
地相術とその専家たち	425
墓・祀堂および寺院の風水	426

結語

訳者後記	441
------	-----

索引